認知症重度化予防介護教室を活用した家族介護者の介護負担感、行動変容の検証

午頭　潤子・森山　千賀子

研究実績の概要

１．本研究の目的

本研究では、認知症の人のケアをする家族介護者を対象に、「認知症の重度化予防認知症介護教室」を開催し、認知症の症状改善の検証、認知症の症状の改善を通し、家族介護者の介護負担感の変化、行動変容を明らかにすることを目的とする。

また本研究では、市民の一番の身近な場所である公民館と連携し、開拓的な認知症介護教室等を開催することで高齢者や認知症の人をかかえる市民のニーズを把握し、自治体や地域包括支援センター、介護事業所との関わりも深め地域包括ケアシステムの構築を目指す。

２．認知症の重度化予防認知症介護教室の概要

本研究では、認知症の症状改善に関する具体的な方法を家族介護者が得る認知症介護教室としてこれまで全国各地で開催実績があり、認知症改善に関する複数の研究結果や実践報告されている「認知症あんしん生活実践塾」を採択した。

開催内容：令和３年８月31日、９月28日、10月19日、11月16日、12月14日、令和４年１月25日 13：00 ～ 15：00 東村山市立中央公民館　全６回開催。

講師：一般社団法人 日本自立支援介護・パワーリハ学会 会長 竹内 孝仁氏、国際医療福祉大学大学院 准教授 小平 めぐみ氏

３．開催結果

１）初回は公開講座「認知症重度化予防の基礎理論」とし一般公開。35名参加（定員35名）。

２）２～６回は事例検討「認知症の重度化予防に挑戦しましょう」とし、９組の家族介護者が参加。うち１組は介護支援専門員が同席。自分の事例を毎月報告し、講師から自身に必要な認知症の症状を改善させる方法について学び実践する。

３）認知症の症状改善結果

９名の参加者が提示した初回講義時点（R3.10月）の認知症の症状合計数32に対し、症状消失18（56.25％）、ほとんど改善３（9.38％）、中等度改善１（3.13％）、一部改善４（12.5％）、変化なし６（18.75％）であった。改善率は症状消失、ほとんど改善を抽出し、65.63％であった。（家族で治そう認知症／全国統一評価表より）

約９割の方は全体的にみて効果があったと評価した。

４）参加者の声（アンケートより）

①本人の症状の変化

・半年前に見られたボーとした不活動的な様子はなくなった。

・便失禁はほとんどなくなった。自覚してトイレに行っている。

・「窓の外に誰かが通った」ということはほとんど言わなくなる。

②家族介護者の行動変容

・水分摂取、適度な運動、栄養、排便は万人に共有していると思った。

・問題行動を起こす母を見ていて心が折れたが声かけによって変化することがわかった。

・認知症の人の行動を理解して行動できるようになった。

③参加感想

・水分不足で認知症の症状が出現することは今ま

で知らなかった。勉強になった。

・絶望的な毎日を過ごしていましたが、実践塾に参加して気持ちが楽になり要介護者にも優しく接するようになりました。

４．今後の課題

２年間の継続研究の１年目の実施であり、来年度更にデータを増やし認知症の症状改善の検証、認知症の症状の改善を通し、家族介護者の介護負担感の変化、行動変容を明らかにしたい。

ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。